佳ちゃんの部屋へようこそ。今回はプランニング部 兼 事業企画室の冨山さんです！いつも朝早くから仕事している働き者の冨山さんですが、学生時代は真逆だったようで.....。今回はそんな学生時代からノットに入るまでの話や、社長とのエピソードを語って頂きました。

名前：冨山拓朗
あだ名：トミー
出身地：茨城県
誕生日：12月6日

学生時代

——学生時代は？電子電気工学科を出てるんだよね。

この間大学のその学科調べたら、もう無くなってました（笑）大学までは、人生はあんまうまくいってなかったですね。就活もしてなかったし、ちょうど就職氷河期だったんですよね。でも最大のターニングポイントは就職したことでした。ほんとダメなやつだったんですけど、強制的にめちゃくちゃ働かされたのがすごく良かったなと思います。蓋を開けたら働き者なんですよ

——仕事とは「お金をもらうための生業」。

学生の時とか、お金を持ってなかったっすよ。パチンコやりすぎちゃって、40万円ぐらい学生ローンで借金とかもしちゃってたんですよね。それで返せなくなって、もう死ぬしかないかなって思っていたんですけど、借りた金でパチンコ行ったら奇跡的に1日で40万勝ったんですよ。もう死のうと思ってたから、これでもっと当ててやろうとも思わず、速攻学生ローンの事務所に行って完済したんです。だから社会人になって仕事がすごく大変でも、お金をすごくもらえた気がしたんですよね。生活に余裕ができて。そう思えたのは良かったのかもしれないですね。

社長とのエピソード

——前の会社を辞めたって聞いた時、すぐノット来いよって誘ったんだよね。

前職を辞める時、周りに一切言わなかったんですよ。あまりに突然だったから当時の社長が激怒して。当時上司だった秋葉さんにも「なんで相談しないんだよ」って言われたりしたんですけど、秋葉さんも同時期に辞める予定で谷川社長に相談してたんですよね。それで秋葉さんが先にノットに入って、その後自分が辞めるって連絡をしたら、誰よりも先に谷川社長から連絡を頂きました。

——社長のこと、どう思ってる？

もうすごい尊敬してます。忖度なしで。客観的に社内を見た時に、やっぱり社長が1番いい人だし優秀だと思いますね。でも社長の仕事のやり方に関しては、すごいとは思うけどそこは尊敬しないです（笑）あと基本的に自分はくそ野郎なんですね。そんな自分を今まで導いてきてくれて感謝してます。自分らしくいられて、自分の納得できる環境、状態でいられるというのはラッキーだと思ってますね。

人生観を変えた仕事

——これまで印象に残っている仕事の話。

LINE案件で赤字と大量のTシャツ在庫、盆踊りで大赤字、てきと〜な鉄道展で超大赤字とか。あとはスクウェア・エニックス出禁。ノットに入った頃「俺ってめちゃくちゃすごいよね」っていう、「俺よりイケてる若手なんて1人もいないよね」っていう姿勢で仕事してたんですよ。現場でもスタッフのこと信用してなくて、「全員俺に報告しろ。」って言って。その時の上司にも、社長にももちろん報告とかしない。社内の「ほうれんそう」とかを一切しないで全部無視して、全部自分でやろうと思って大事故を起こしたんですね。

——でもあれって冨山が悪かったのかな。

いや僕が悪かったっすね。天狗になってワンマンプレーをして。この時、自分の人生観が変わりました。プロフェッショナルな社内外のチームで連携して成功させるってことがどれだけ重要で必要なことなのかということを学んだ仕事でした。プロデュースするってどういうことなの？ってことを初めて考えたきっかけでもありますね。特にみんなに伝えたいのは、ちょっと進行の段取り悪かったなって思っても、くよくよしないでってことですね。もう本当に、事故のレベルが違うよっていう。

趣味のこと

——趣味は？

趣味じゃないんですけど、やっぱ音楽をディグルのが好きなんですよね。レコード探すとかも大好きで、音源とかも好きなんですよ。有名な曲を聞くっていうよりかは、有名な曲から始まって、関連アーティストからどんどん繋がっていくっていう。自分が見つけた感みたいなのがいいんですよね。

小学生から大学卒業までずっとストリートダンスをやっていたのもあって、HIPHOP、ダンスミュージック、アフロビートとか、割と幅広で聴くかもです。 ブームってわけではないけど、作業用MUSICでLOFI HIP HOPはよく聞きます。 日本のトラックメーカー系の音源も好きで、SWEET WILLIAM、EBISBEATS、 Green Assassin Dollar、OLIVEＯＩＬ、TOSHIKI HAYASHIとか好きです。 ダンスミュージックだとケニードーブ、MURAMASA、Jamie XXとか..... アフロビートだとNSG、MIDAS THE JAGABANとか.....。色々聞きます。

学生時代『闇金ウシジマくん』のような経験をしていた冨山さん。今の冨山さんを作り上げたのは、そんな学生時代や社会人になってからの経験だったんですね。

次回はクリエイティブ本部の波多野さんです！お楽しみに。